

当院での働き方改革の事例紹介



Humanity

患者さまを家族のように想い、温かく接します。

Interaction

患者さまとの対話を尊重し、相互理解に努めます。

Trust

技術と知識の研鑽に努め、信頼される医療を目指します。

Openness

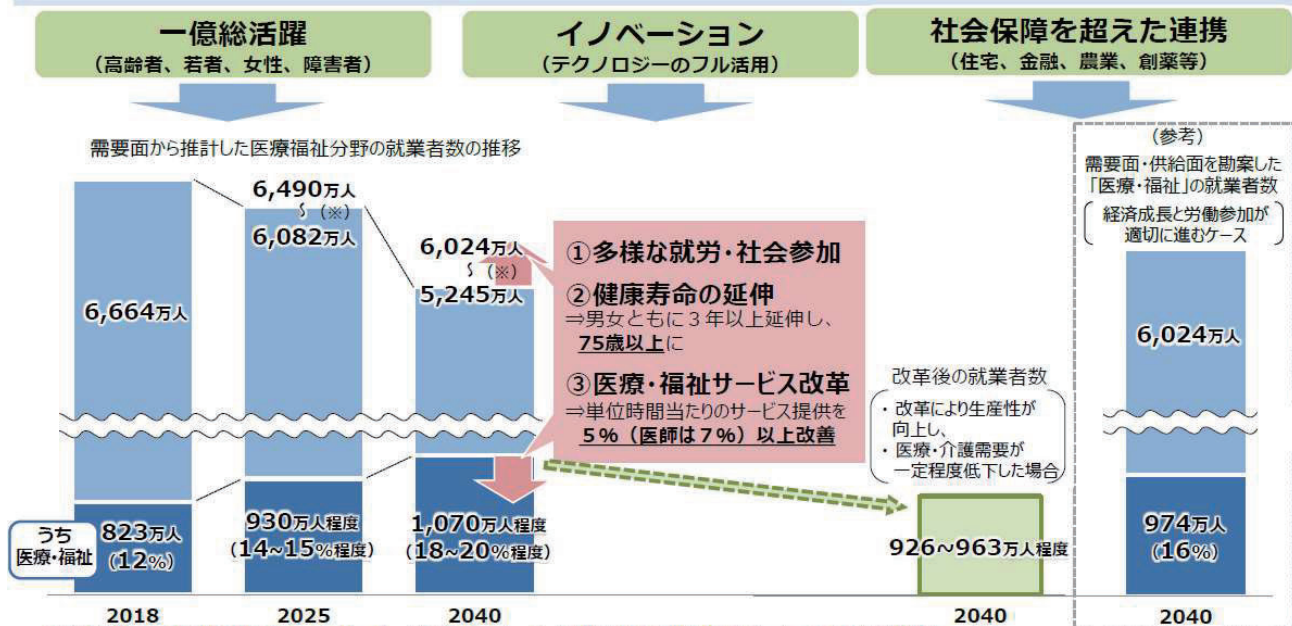
心を開き、患者さまと公平に向き合います。

社会医療法人石川記念会 HITO病院 理事長
石川ヘルスケアグループ 総院長
石川賀代



2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現

- 2040年を展望すると、高齢者の人口の伸びは落ち着き、現役世代（担い手）が急減する。
→「総就業者数の増加」とともに、「より少ない人手でも回る医療・福祉の現場を実現」することが必要。
- 今夏に向けて、「健康寿命延伸プラン」と「医療・福祉サービス改革プラン」を策定。



※：総就業者数は雇用政策研究会資料（平成31年1月15日）。総就業者数のうち、下の数値は経済成長と労働参加が進まないケース、上の数値は進むケースを記載。

④ 給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保

労働力制約が強まる中での医療・福祉サービスの確保（医療・福祉サービス改革プラン）

- 今夏に向けて、「**医療・福祉サービス改革プラン**」を策定。
→2040年時点において、医療・福祉分野の単位時間当たりのサービス提供(※)について**5%（医師については7%）以上の改善**を目指す
- **以下4つの改革を通じて、医療・福祉サービス改革による生産性の向上を図る。**

※（各分野の）利用者数÷従事者の総労働時間で算出される指標（テクノロジーの活用や業務の適切な分担により、医療・福祉の現場全体に必要なサービスがより効率的に提供されると改善）

I	ロボット・AI・ICT等、データヘルス改革	II	タスクシフティング、シニア人材の活用推進	III	組織マネジメント改革	IV	経営の大規模化・協働化
----------	-----------------------	-----------	----------------------	------------	------------	-----------	-------------

Iの例 **人と先端技術が共生し、一人ひとりの生き方を共に支える次世代ケアの実現**
(未来イノベーションWG：経済産業省と連携)

2040年の理想的な姿	3つのアプローチ
人と技術が共生し、その人なりの価値を届けることができる	医療・介護インフラのスマート化（担い手不足の解消）
誰もが幸せの実現に向けて、自分に合った生き方を選択できる	個人の主体化を支える（心身機能の維持・拡張等）
誰もがどんな状態であっても、「これでいい」と自然に思える	共に支える新たな関係の形成（テクノロジーによるインクルージョン）

3つのアプローチを支える基盤

- 官（政府部門）のインテリジェンス機能強化
- 有望な技術領域の特定、官のリソースの重点配分（ムーンショット型研究開発等）
- 先端技術の社会実装の加速誘導策

日本は、海外から多くの投資・人が集まるイノベーションハブに

（今後の施策例）▶「**未来社会を見据えた研究開発**」
▶「**地域を定めた実証実験**」



◀例▶ OriHime-D オリ研究所
外出困難な人のテレワークを可能に

I～IIIの例 **介護現場の革新**

● 本年5月以降、以下の取組を行うパイロット事業を実施し、効果検証後、全国に普及。
①業務フローの分析・仕分け、②元気高齢者の活躍、③ロボット・センサー・ICTの活用、④介護業界のイメージ改善と人材確保・定着促進

①業務仕分け

入所者のケア | 間接業務

介護専門職が担うべき業務に重点化

②元気高齢者 | 地域に新たな活躍の場の創出

・就労・有償ボランティア

③ロボット・センサー・ICT | 夜勤業務・記録入力の効率化等

質の向上

業界イメージ刷新

出典：2019年4月10日 第五回経済財政諮問会議 資料

病院概要

- **病院名** 社会医療法人石川記念会 HITO病院
- **所在地** 愛媛県四国中央市上分町788番地1



- **病床数** 257床
- HCU I：12床
- HCU II：5床
- 一般病棟入院基本料1：120床
- 緩和ケア病棟：17床
- 回復期リハビリテーション病棟：50床
- 地域包括ケア病棟：53床



- **診療科目** 内科・消化器内科・循環器内科・脳神経内科・緩和ケア内科・糖尿病内科・消化器内科
心臓血管外科・呼吸器外科・肛門外科・脳神経外科・整形外科・形成外科・美容外科
皮膚科・泌尿器科・リハビリテーション科・婦人科・放射線科・麻酔科・歯科・精神科

■ 職員数 約550名

(医師38名/看護師230名/薬剤師14名/リハビリスタッフ75名/放射線技師12名/管理栄養士11名/臨床検査技師9名/臨床工学技士4名/医療クラーク20名 他)

- **病床稼働率** 91% ※2019年12月
- **平均在院日数** 12.7日 ※2019年12月

■ 行動規範 Human 1st（患者・市民・スタッフを第一に）

- **具体的なアクション** **Humanity:**患者さまを家族のように思い温かく接します **Interaction:**患者さまとの対話を尊重し相互理解に努めます
- Trust:**技術と知識の研鑽に努め信頼される医療を目指します **Openness:**心を開き患者さまと公平に向き合います

「HITO」を中心とした医療のあり方

「ひとの生きる」を支えるをコンセプトとして
職員それぞれの成長と生き方を実現
多様な人材が協働できる組織へ進化

病院の置かれている課題

- 人口減少、少子高齢化
- 社会保障費の削減

激動の時代を迎える医療業界



- 地域医療構想

次世代に対応する医療環境・意識改革
多様化する時代に対応する柔軟性
持続可能な病院のあり方

「働き方改革」の目的

働きやすい環境づくり→モチベーション向上

情報共有・効率化

電子カルテ閲覧
業務用SNS活用

医療の質向上

院内マニュアルの電子化

人材育成

院内勉強会の動画コンテンツ化

人口減少社会でも持続可能な病院であるために

- 労働時間短縮だけでなく、働きやすい環境の整備
- 多職種協働チーム医療強化によるタスク・シフト/シェアの推進
- 医師の業務時間削減
- 変形労働時間制等の導入へ向けた準備
- ICT等の活用によるその他の業務削減・効率化

人材確保・定着

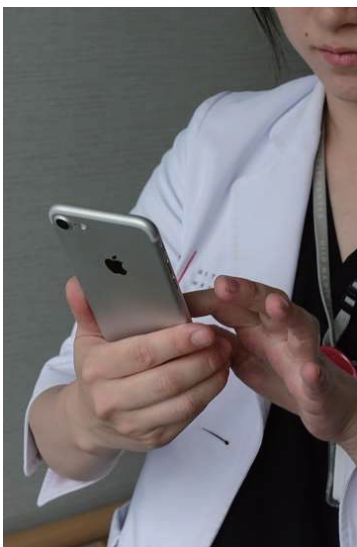
持続可能な病院経営
医療の質向上

ICT活用事例

意識改革・業務の再構築

スマートフォン導入について

**未来創出
HITOプロジェクト**
病院の置かれている環境課題に対し
ICTの活用によるアプローチ



業務効率化

医療サービスレベル向上



働き方改革の推進

労働時間の短縮を意識しながら
生産性の向上を目指す為に
質を落とさず効率化推進



ICT利活用が必須

300台のiPhone払出し状況

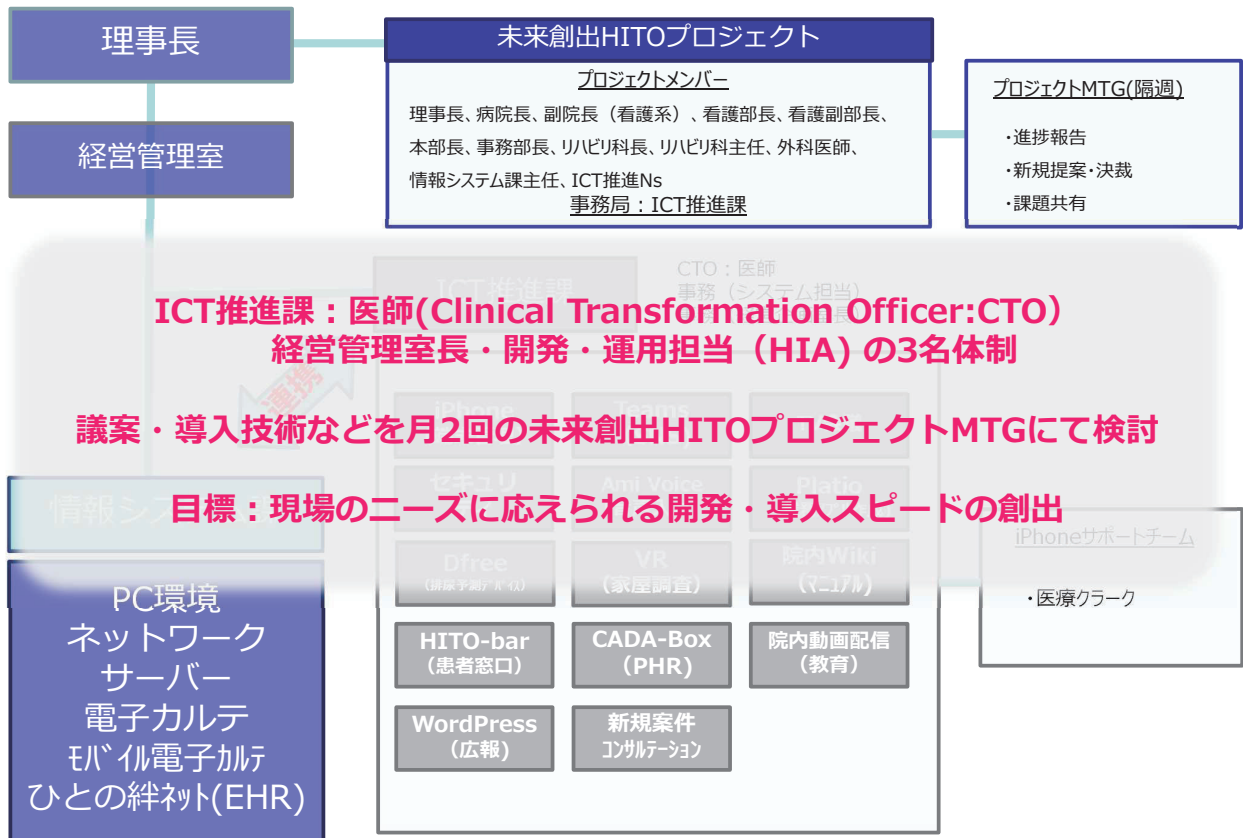
職種	台数	備考
医師	40	1人1台
看護師（役職）	20	//
//（一般）	100	共用
リハビリ	60	一部供用
薬剤師	8	1人1台
管理栄養士	11	//
MSW	8	//
医療クラーク	18	部門配置
歯科衛生士	3	1人1台
その他	3	
事務	30	1人1台

2020.1.1現在

iPhoneにおけるソリューション一覧

	医師	看護師	薬剤師	リハビリ	栄養士	MSW	クラーク
電子カルテ	所見入力閲覧・写真添付・検査画像閲覧・オーダー確認						
音声入力	電子カルテへの直接入力						
業務用SNS	部内・病棟内・チーム内・グループ内 テキストチャット						
内線	院内・グループ内 音声通話						
グループウェア	メール・スケジュール・ワークフロー/iPhoneとのカレンダー共有 等						
退院・転棟・薬剤カレンダー		病棟間共有	薬剤管理	訓練		病棟/グループ	カンファ予定
TV会議	カンファ	家族面談		遠隔言語聴覚訓練			
データベース		申し送りメモ		物品管理			
排尿管理		通知		通知			
マニュアル		看護マニュアル		リハビリマニュアル	診療報酬		
動画共有	勉強会講演会	看護マニュアル		挙上動作共有			
VR・間取り作成				家屋調査		間取作成	
患者面談予約	面談管理	面談管理					
電子書籍配信		入院案内		業務関連			
病棟業務管理アプリ		todo		実施確認			

ICT推進体制【未来創出HITOプロジェクト組織体制】

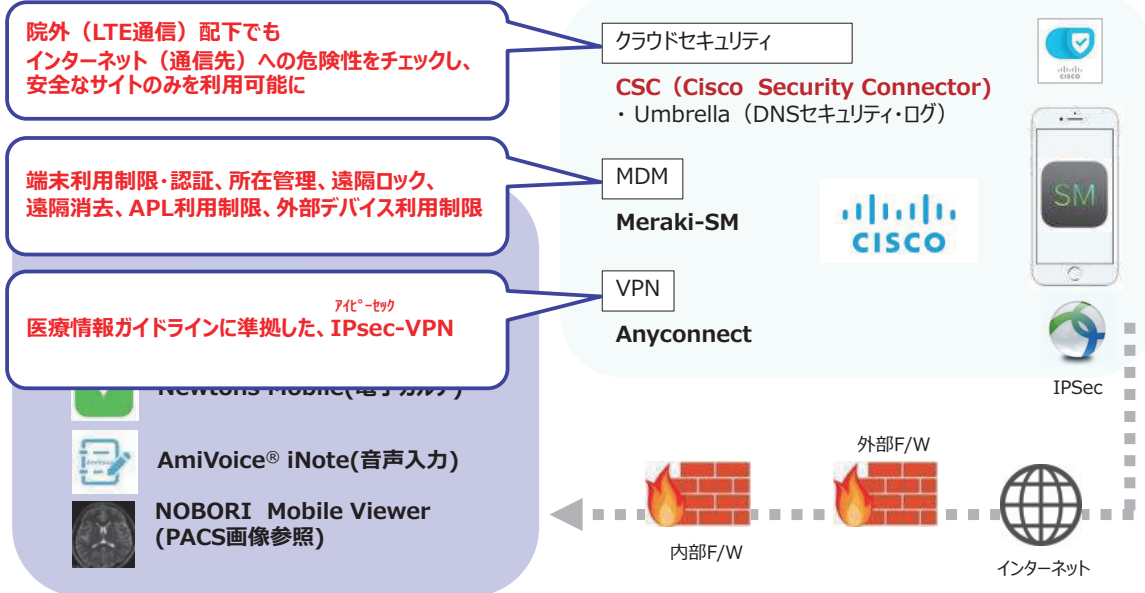


iPhoneのシステム構成・ネットワーク・セキュリティ



リモートワークを支える技術

iPhone + Ciscoによる世界基準のセキュリティが 電子カルテの院外参照による、医師のリモートワークを実現！



ICT推進のコストについて

- ① WiFi環境整備
- ② 端末費用
- ③ APL費用
- ④ 通信費用



初期費用：端末、モバイル電子カルテ等
約1千万円
※Wifi環境は既構築済

ランニング：通信費・APL利用料は
各キャリアとの調整

タスク・シフティング等勤務環境改善推進事業による補助金の活用

医療機関における勤務環境改善取組好事例集

働き方・休み方の改善に関する好事例

事例16: スマートデバイスを活用した働き方の改善に関する取組【HITO病院】



- ・ 医療法人(愛媛県四国中央市)
- ・ 急性期機能
- ・ 病床数267床 (一般病床129床、地域包括ケア病床53床、緩和ケア病床13床、回復期リハビリテーション病床50床、HCU17床)
- ・ 職員数526名 (医師32名、看護師215名、医療技術職114名、事務職等165名)

取組前の状況

- ・ 人口減少や少子化・高齢化が進捗し働き手が減少する中、医療の質を常に向上させるためには業務の効率化が必須である。平成29年1月、「未来創出HITOプロジェクト」を始動し、iPhone等のスマートデバイスの活用を決めた
- ・ 多職種が密接にコミュニケーションできる環境を理想と考えていたが、当時はPHS、メール、ミーティングが主で、リアルタイムで記録にも残る形で多職種が同時に情報共有するにはいずれの方法にも欠点があった。そこで、iPhoneへの移行を機に業務用SNSの構築に取組むこととした
- ・ また、業務量調査において、リハビリスタッフがカルテ記載に時間を取られていることが分かった。PC+マイクによる音声入力システムでは医療スタッフには浸透しないため、iPhone移行のタイミングに合わせて、PC不要でiPhoneからの音声入力が可能なシステムを検討することとした

取組内容と成功のポイント

【主な取組内容】

- ・ iPhone導入／活用による、①音声入力を用いたカルテ業務の効率化、②業務用SNS等を用いた情報共有による業務の質向上: ①カルテ入力(PC端末までの移動とPCの空き待ち)が時間外労働に影響を及ぼしていたため、スタッフが音声入力し代行入力者が仮登録する運用を構築、②リアルタイムに受発信するSNSを構築し、動画を含む情報共有(注意事項・申し送り等)や研修コンテンツ配信等を実現

【運用面での工夫／特徴】

- ・ 病院長、経営陣のコミットメントとメッセージ: コスト回収は難しい可能性があると考えたが、病院長が長期的視点で導入を決めた音声入力は予め頭の中で内容を整理する必要があるため慣れるまで難しいが「患者説明の訓練になる」と病院長が話をしたりして、動機づけをはかった
- ・ スモールスケールからの導入: リハビリ科の1人がテストを行い、次いで2~3人に拡大し、次に科全体に拡大することで、全体に拡大するときには、導入時の課題を整理した形で導入できた
- ・ 産病連携: 当初ない製品につき、実現に向けてテスト段階からメーカーと協業し、且つ院内でも運用を都度改善した
- ・ 職員指導: 音声入力が苦手な職員に対しリーダースタッフが個別指導を行い、積極的に活用に向けて取組んだ
- ・ 費用対効果の測定と評価: 投資面の効果を定量的に評価するため実地効果測定を行い将来的展開の示唆とした

取組の効果

- ・ 患者1回あたりカルテ入力は2分54秒⇒55.3秒に、リハビリ科全体の1日当たり入力時間は16時間⇒5時間に短縮(職員1人平均18分短縮)した。職員1人1日当たりリハビリ数は17.6単位⇒18.2単位に増加し、科全体の残業は70時間⇒30時間に減少した
- ・ 業務SNSの活用により会議や情報共有がストレスなくできるようになった
- ・ 院内全体として勤務環境をよくするために新しい優れた手法を積極的に取り入れようとする風土ができた

リハビリテーションスタッフの声

“リアルタイムに情報を受信できるし、記録として残るので、休み明け等にも情報を滞りなく確認できる。PHSへの頻回な連絡のため手止めることもなくなった”

“キーボードより早いし、PCの待ち時間もなく、移動時間も入力でき、リハビリに介入できる時間が増えた”

出典：厚生労働省委託事業

「平成30年度 医療勤務環境改善マネジメントシステムに基づく医療機関の取組に対する支援の充実を図るための調査・研究」

スマートフォンと業務アプリの導入で医療現場の働き方が変わる

PHSの保守終了を見据え、それに代わるコミュニケーションツールとして、2018年よりiPhoneを段階的に導入。各業務アプリの開発・実証実験を経て、2019年に日勤勤務のほぼすべてのスタッフに行きわたる300台のiPhone導入



- ✓PHSによる頻回な電話連絡
- ✓カルテ確認のための部屋移動
- ✓共有PC端末が空くの待つ時間
- ✓ひとり1台の端末ではなかった

iPhone導入で可能となったこと

場所に縛られない働き方

あらたなコミュニケーション

チャット機能

テレビ会議

音声入力・OCR

アプリ活用

カメラ機能(静止画・動画)

モバイル端末のiPhone導入により多職種連携が強化され
情報アクセスや意思決定の迅速化による治療開始時間の短縮

音声入力による効率化や自己研鑽できる学習インフラの整備による人材育成が可能となった。

業務効率化

医療機能の向上

iPhone導入

ICTのパーソナル化



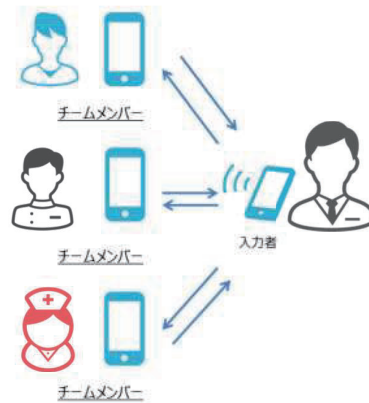
カルテの音声入力

入力作業の効率化



業務用SNS

多職種コミュニケーション



※段階的に、院外・地域と
情報共有・情報伝達にも利用

日本初の音声入力可能なiPhone電子カルテ



- ① カルテ閲覧・入力
- ② 放射線画像閲覧
- ③ 検温結果
- ④ 臨床検査閲覧
- ⑤ オーダー参照

カルテ記載
(Amivoice SBXによる音声入力)



PACS画像参照
(NOBORI Mobile Viewer)



AmiVoice® (音声入力)

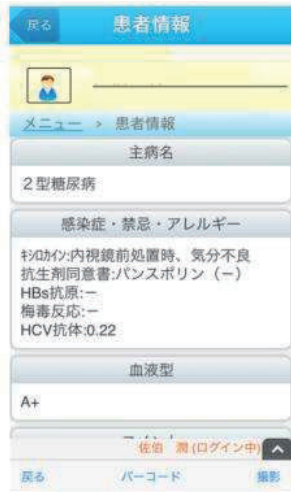
Advanced Media, Inc.
株式会社アドバンス・メディア

iPhone電子カルテの機能

場所に縛られない働き方で診療業務を効率化

患者情報

- ①主病名
- ②感染症・禁忌・アレルギー情報
- ③血液型④家族情報



検温結果入力・参照



オーダー参照

Rp.	内容	用量	単位
1	(碎)アミダロン錠20mg 1日1回 朝食後	56日分	1錠
2	アスピリン錠10mg 1日1回 朝食後	56日分	1錠
3	トピロキソン皮下注0.75mg77粒 0.5mL速光 0.75mgを週1回皮下注(トピロキソン) 毎週土曜日朝に投与	87粒	1錠
4	加バゾロキソン錠10mg「加バゾロキソン」 1日1回 朝食後	56日分	1錠

患者スケジュール (ワークシート)

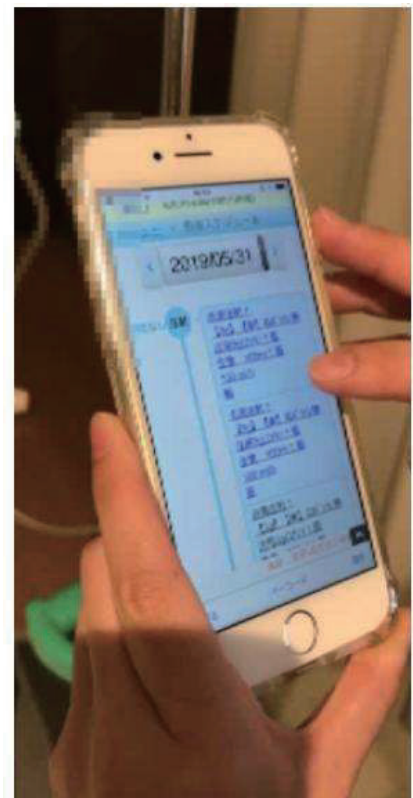
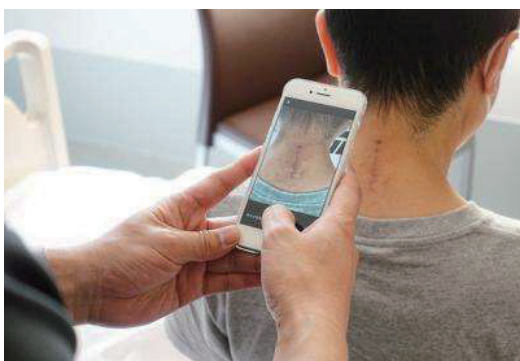
- 検査:** 末梢血液一般5種 1回, 電解質① (Na/K/Cl) 1 ※術後採血, 内科セット 1, CRP定量 1回
- 計画:** #1 基準看護計画 (安楽障害: 疼痛 (急性期)) (評価予定日: 2019/07/04), #2 基準看護計画 (皮膚統合性障害リスク状態: 成人) (評価予定日: 2019/07/04)
- 看護:** 病衣 (1日につき) アンシルク, 時間未指定, 酸素吸入 必要時, 流量 5L/分, 酸素濃度 45%

iPhoneのカメラ機能活用 (バーコード・QRコード)

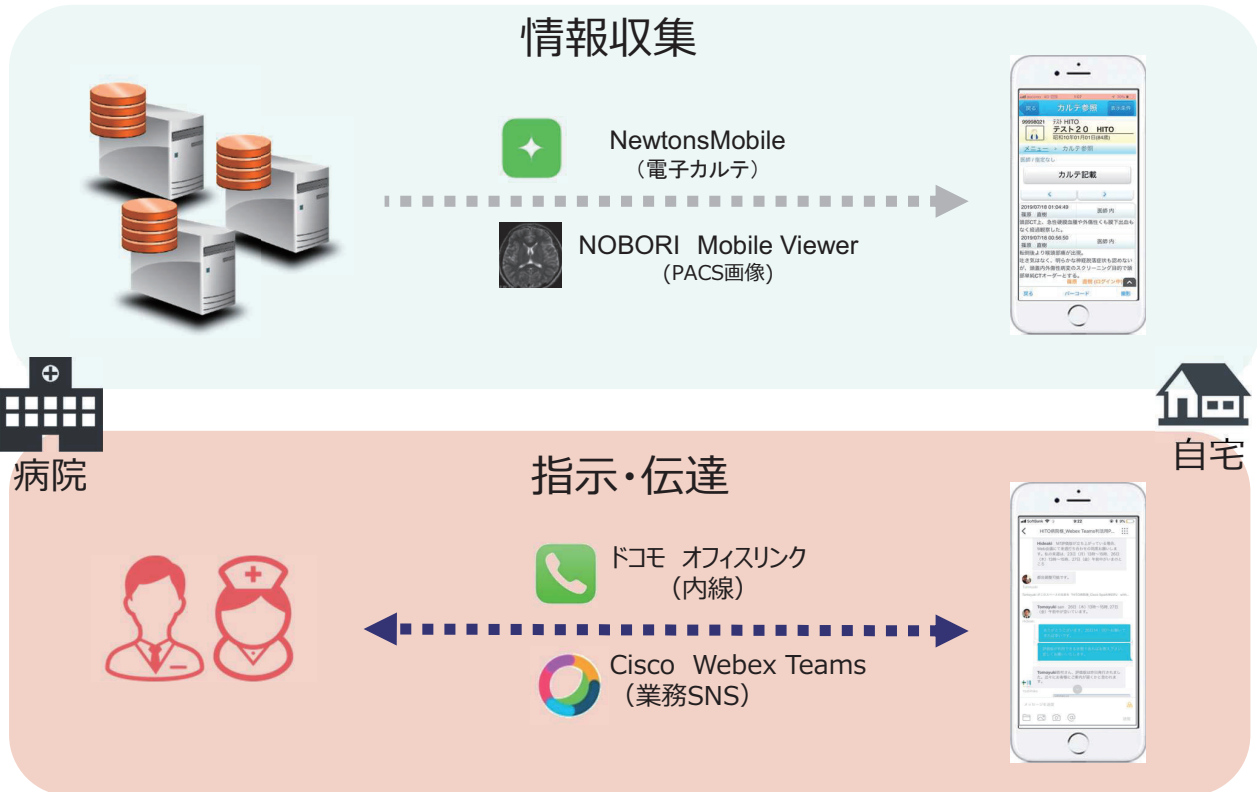


実施入力
安全確認
(三点認証)

写真をカルテに直接貼り付け



医師のリモートワークワーク



多職種協働チーム医療の活性化

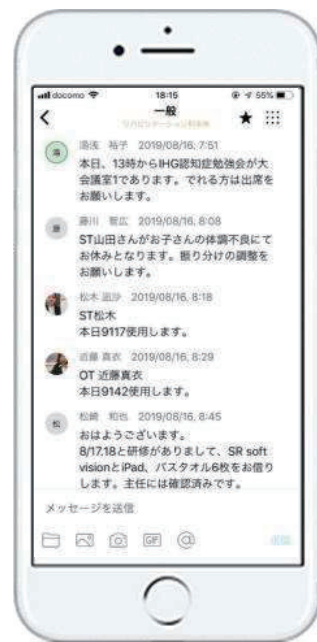
電話連絡による1対1のコミュニケーションの問題点

- ・複数人への情報共有の際、PHSで何度も電話する必要がある。
- ・連絡のタイミングを計るのが難しい。医師にかけづらい。
- ・不急の電話連絡で業務が中断される。

病棟での多職種カンファレンスの模様



iPhoneを導入、チーム医療でチャット機能を活用



- ☑ 1対多のコミュニケーションが可能となり、飛躍的に利便性が高まった。
- ☑ 場所にしばられない働き方が実現され、業務の効率化につながる。
- ☑ 自分のタイミングで確認・返信でき、時間を奪わず、奪われない働き方が実現され、効率性が向上した。

院内SNS「Cisco Webex Teams」病棟活用事例



医師 ↔ 薬剤師 持参薬の情報伝達、処方変更

Webex Teams

篠原先生
てんかんの 〇〇 さまの持参薬識別上げています。メトグルコについて、継続の場合は引用せず院内処方をお願いします。詳細はカルテに記載しております。何かありましたら、本日は顧問の大西 (PHS622)までお願い致します。

8F

篠原先生
真紀先生（外来内科主治医）に確認しました、内服再開時にオルメテックをアジルバ20mgへ変更してくださいとのことでした、よろしくお祈りします

8F

はい。

篠原 直樹

篠原先生
〇〇 さまのお薬ですが、タケルダ配合錠が簡易懸濁不可です。バイアスピリンとランソプラゾールへの分解処方が必要です。また、簡易懸濁ではバイアスピリンもパファリンへの変更が推奨されます。処方変更いかがでしょうか。

8F

お願い致します。

篠原 直樹

院内SNS「Cisco Webex Teams」病棟活用事例



医師 ↔ 医師事務作業補助者の場合

Webex Teams

扇喜先生クラーク連絡用 ☆ ⋮

田友 田淵 友弓 2019/07/18, 15:23
扇喜先生

CTレポートがついてます。
慢性炎症性変化、左肺下葉陰影増悪とのことです。
またご確認宜しくお祈りします 🙏

2019/07/22

田友 田淵 友弓 2019/07/22, 14:37
扇喜先生

今週金曜、三豊最診です。
CD📄作成完了しております。
紹介状お祈りします 🙏🙏🙏🙏

2019/07/23

扇喜 智寛 2019/07/23, 9:18
誠心誠意、作成中です 🙏🙏

一般 ☆ ⋮
臨床研修/研修医

沖符 沖田 将慶 2019/07/03, 16:21
沖田、渡辺は救急で縫合しているので、遅れて参加します

西原 彩加 2019/07/03, 16:22
お疲れ様です。
承知致しました。

西原 彩加 2019/07/03, 17:06
お疲れ様です。
本日のレジレクですが、開催なしとなりました。
スケジュールの組み直しはせず、岡本先生より研修医の先生方が集まっている時にお声がけ、開催するとのことです。
大変申し訳ございませんが、よろしくお願い申し上げます。

村山 健太郎 2019/07/03, 17:07
了解です！ありがとうございます！

沖符 沖田 将慶 2019/07/03, 17:08
申し訳ありません。よろしくお願い致します。

院内SNS「Cisco Webex Teams」病棟活用事例



病床管理室 ← → 各部門・関係者への伝達

Webex Teams

8月31日 (非当番日) 空床状況 12:20現在

	HCU I	HCU II	個室	男	女	合計
重症者	4 バスタベッド	820名(2) 820名	-	-	-	6名
軽症者	-	-	609名(1) 613名(1)	601名(1)	-	3名
急性期	-	709名 811名 903名	714名(2) 818名(1) 916名(1)	719名(1) 819名(1)	-	12名
予約ベッド	-	803名 806名 903名	716名(1)	919名(2)	-	6名

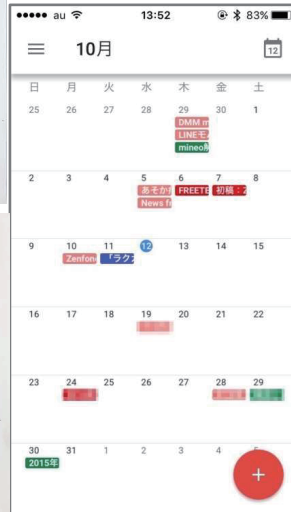
・HCU対象者はHCU I・IIへお願いします。ただしHCU IIは女性のみです。
・軽症者は6階病棟へお願いします。

8月7日 (当番日) 空床状況 17:35現在

	HCU I	HCU II	個室	男	女	合計
重症者	4 バスタベッド	-	-	-	-	4名 バスタベッド 2名
軽症者	-	-	-	-	-	0名
急性期	-	704名 718名 723名 903名	704名(2) 718名(1) 723名(1) 903名	919名(1)	-	7名
予約ベッド	-	804名(811名) 802名 904名	818名(1)	817名(1)	-	6名

・HCU対象者はHCU Iでお願いします。
・8階病棟空床ないため他病棟で対応をお願いします。

空床状況



入退院状況カレンダー

病棟管理情報共有 ☆ ⋮

- 佐 佐光 千秋 2019/08/21, 11:07
救急外来より89歳男性、911号へ左大腿骨頸部骨折で入院となりました
- 中和 中村 和美 2019/08/21, 11:13
704 転院になりました。
- 佐 佐光 千秋 2019/08/21, 11:22
HCU⑤循環器内科より退室許可でました。
- 中圭 中岡 圭子 2019/08/21, 12:34
内科より60歳男性 肝硬変にて704号へ入院入ります。
- 中和 中村 和美 2019/08/21, 13:33
719-1 本日退院になりました。
- 中圭 中岡 圭子 2019/08/21, 13:38
内科より76歳女性 胆管炎にて719号へ入院入ります。
総合診療科(京楽Dr)より96歳女性 脳梗塞で817号へ入院入ります。

リアルタイムな入退院情報

TV会議システム活用事例 遠隔カンファレンス

病棟と医師をつなぐ遠隔カンファレンスにより移動時間の短縮/効率化



- 病棟間ミーティング
- 緩和ケア病棟での家族面談
- 手術室内外の連絡

院内勉強会の動画コンテンツ化

院内実施の勉強会・講演会の動画をiPhone/PCで閲覧できるコンテンツ化

The image shows a screenshot of a video content management system. At the top, there is a header for a medical safety seminar. Below it, a table lists seminars with columns for '開催日' (Date) and '概要' (Summary). A red arrow points from the table to a video player interface showing a seminar video. A blue arrow points from the video player back to the table. To the right of the video player is a red circular logo with the text '1 Human 1st.'.

開催日	概要
	医療安全講習会「インシデントレポートと改善策」(2/24/15)
前1週	内容「インシデントレポートと改善策、2/24/15」 4月11日注意：4/11に開催された内容と重複 インシデントレポートシステムを解説、おなじみの内容であり、改善策は異なります。其れを併せてインシデントレポートの事例について、しっかりと読んでいただく機会を設けました。 講師 鶴橋 敬子(敬子)氏 コーディネーター 渡辺 文子、インシデントレポート、ディスプレイモニター

有効な情報への
アクセスを容易にし
スタッフの学習意欲
を促進

現在医療安全講習会/ IHG認知症セミナーにて利用中

導入効果

- 多職種のコミュニケーションの迅速化により在院日数が1.6日短縮（稼働率は維持）
- 院外からのカルテ情報閲覧による医師の負担軽減（場所に縛られない働き方）
- 職種間のストレスが軽減（業務を中断されない、自分のタイミングで報告・相談が出来る電話をかける・受け取るストレスから開放）
- 電話の回数が減少、医師からの指示待ちの減少
- ペーパーレス化により年間70万円のコスト削減

タスク・シフティング

負担軽減・勤務環境改善

現行制度上実施可能な業務について当院の状況

厚生労働省 医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会
 「第3回 現行制度上実施可能な業務について」より各項目について実施状況を評価
 (○△×で実施状況を評価/△は0.5カウント)

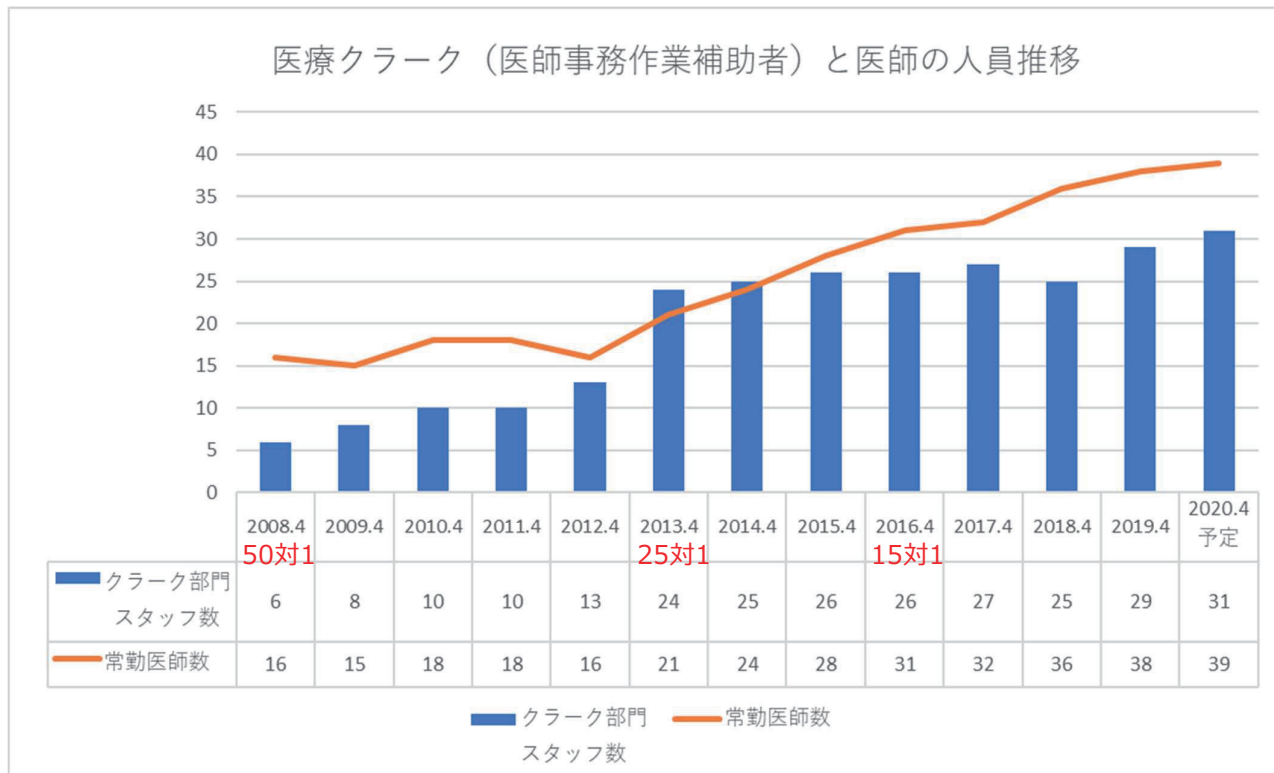
職種	タスクシフト内容 (抜粋)	実施状況
看護師	呼吸器管理 気管チューブの位置調整 など	71業務中 51 業務実施
薬剤師	処方薬の変更・他院持参薬の処方 (代行入力) 術前服薬内容チェック・処方提案 など	16業務中 9.5 業務実施
診療放射線技師	CT/MRI造影剤の注入確認、抜針・止血 など	11業務中 2.5 業務実施
臨床検査技師	検査の際の患者バイタル確認 など	19業務中 3.5 業務実施
臨床工学技師	(医師の具体的指示を受けて行わなければならない)動脈留置カテーテルからの採血 など	18業務中 10.5 業務実施
理学療法士	リハビリテーション実施計画等の作成と患者への説明 など	3業務中 2 業務実施
作業療法士	神経学的検査等のうち、運動、感覚、高次脳機能、ADL、IADL等に関する検査 など	3業務中 2 業務実施
言語聴覚士	高次脳機能障害(認知症含む)、失語症、言語発達障害、発達障害などの評価に必要な臨床心理・神経心理学検査種目の選択・実施及び検査結果の解釈 など	4業務中 3 業務実施
医師事務作業補助者	患者への問診 非侵襲的検査の検査説明・同意書の取得 など	31業務中 30 業務実施

厚生労働省委託事業 看護業務の効率化 先進事例アワード2019

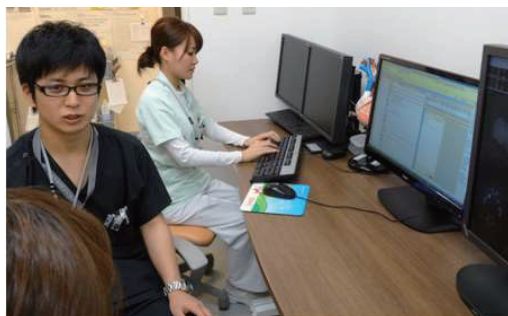
病棟薬剤師との役割委譲・協働による病棟薬剤管理業務の見直し

医療クラーク（医師事務作業補助者）と医師の人員推移

※2004年から先行して医療クラークを採用



医療クラーク（医師事務作業補助者）



【外来での代行入力】



【病棟でのカンファレンス記録入力】

- ・ 人数：31名
- ・ 1診療科に対し、1-2名の配置

- ・ 外来、救急カルテ代行入力
- ・ 各種診断書・主治医意見書等の書類・入院サマリー代筆
- ・ データベース登録
- ・ 回診、カンファレンス記録作成等

多様な勤務形態

常勤医師の多様な働き方

週32時間勤務を目安とし、個々のライフスタイルに応じた勤務体制に柔軟に対応。
現在は遠方からの通勤、子育て、介護との両立を図る医師が下記のようなシフトで勤務。

区分0	医師	ライフスタイル	月	火	水	木	金	土	日	週/h	月/h
常勤	医師A	週末は東京で家族の時間		8	8	8	8			32	128
常勤	医師B	両親の介護	8	8	8	8	8	4		44	132
常勤	医師C	子育て両立	8	4	8	8	4			32	128
常勤	医師D	子育て両立	8	8	8	8		4		36	136

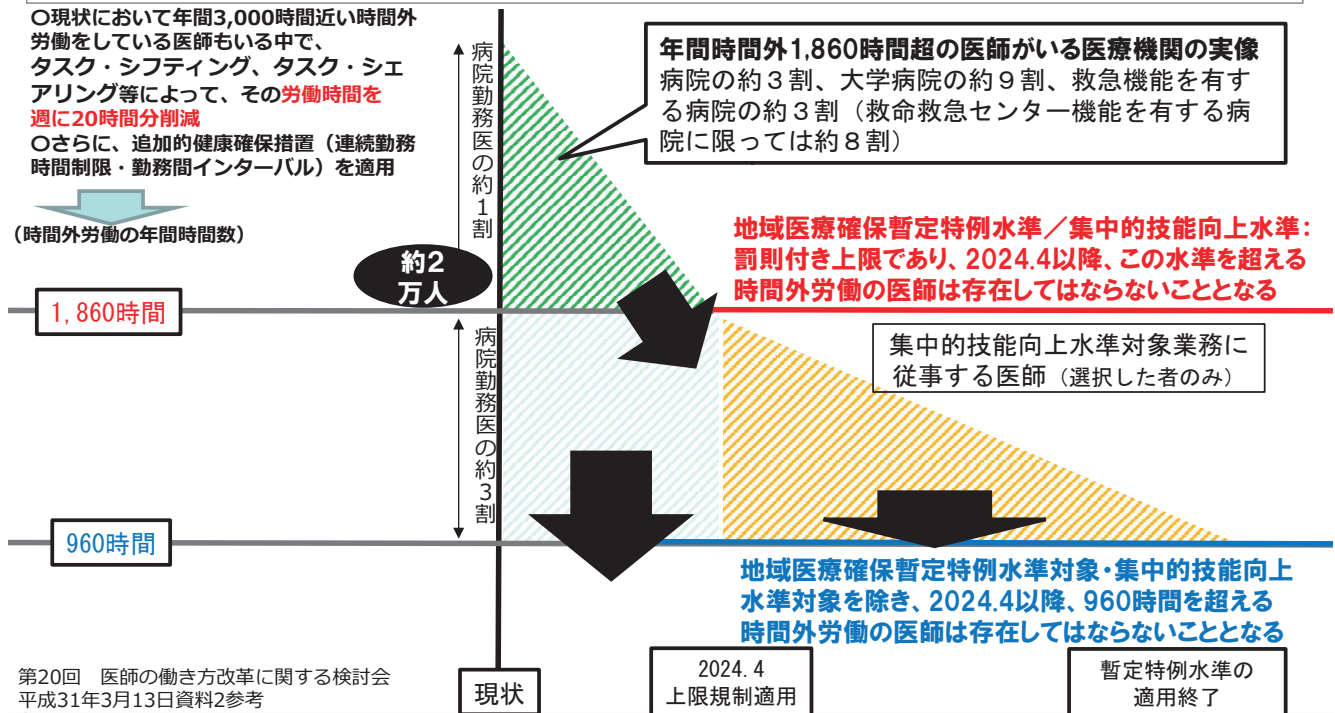
単身赴任の医師について手当
当直免除、診療科の特性に応じた配置

2024年4月とその後に向けた働き方改革のイメージ

- 医療機関で診療に従事する勤務医の時間外労働が**休日労働込み**で年960時間以内となるよう（集中的技能向上水準の対象業務を除く）、医療機関・医療界・行政をあげて全力で労働時間短縮に取り組む。
- 地域医療提供体制の確保の観点からやむを得ずこの水準に到達できない場合も地域医療確保暫定特例水準の年1,860時間を上限として、これを上回る部分を**約5年間**で完全になくす改革をしていく。

○現状において年間3,000時間近い時間外労働をしている医師もいる中で、**タスク・シフティング、タスク・シェアリング**等によって、その**労働時間を週に20時間削減**
 ○さらに、追加的健康確保措置（連続勤務時間制限・勤務間インターバル）を適用

(時間外労働の年間時間数)



2020年度の当院の取組予定

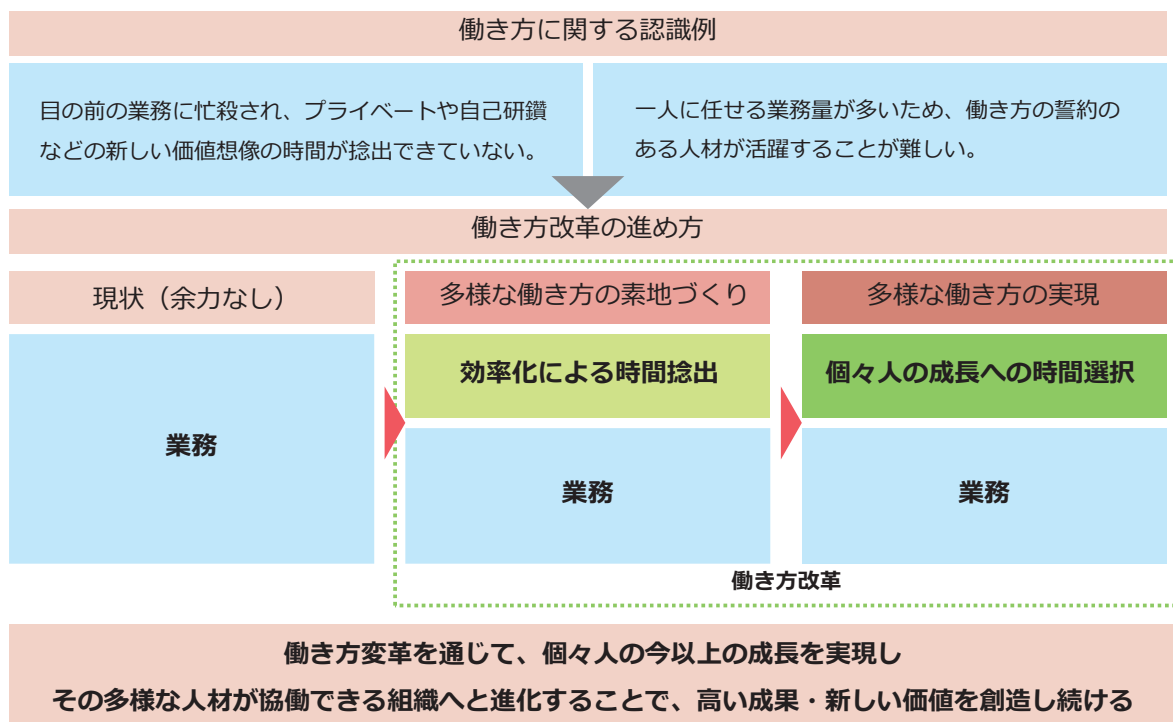
- 専門医の業務負担の是正を目的にタスクシェアのための病院総合医の病棟配置
- 看護師特定行為研修制度のパッケージ化によるタスクシフトの推進（今年度、特定行為研修施設への認定取得）
- 救急体制の再構築（総合診療医と救急医の連携）
- 圏域内の病院間の疾病の機能分化の連携強化

各診療科の強味を最大限に引き出し
 専念できる環境づくり

ヘルスケア改革・働き方改革 実現のポイント

- 効率化による時間の捻出
- 場所に縛られない職場環境
- 迅速な情報へのアクセス
- チャット機能による対話の強化
- 今までの「当たり前」からの脱却（やめる勇気）

働き方改革にむけてのアプローチ



まだ実現できていない、 一歩先の**未来の病院** における働き方

「ひとが真ん中になると、医療が変わる」

様々な**テクノロジーの中心**に「ひと」を置くことで、
業務の効率化、生産性や医療の質の向上を実現

カルテの閲覧や音声入力による記載業務の効率化
業務用SNSを活用したリアルタイムの情報共有などが可能

人口構造が激変する「令和の時代」
ICT活用によるヘルスケア変革は
「ひとを中心とした医療の提供」を実現する鍵となる

